

韓国の青年ホームレスに必要とされる 総合的支援政策

—脱貧困との関わりで—

PARK Yeong Gyun

本稿は、韓国における青年ホームレスの生活上の課題を明確にし、彼らに対する総合的な自立支援政策を求めることを目的とする。本研究が対象とする青年ホームレスの実態は、十分に明らかになっているとはいいがたい。そこで、本稿では、韓国のホームレスの実態から見る青年ホームレスと家出青少年と青年ホームレスとの関わりから青年ホームレスの実態を分析した。若者期にホームレスになった者のなかには、家族の崩壊による生存・発達を保障できなくなり、情緒的自立の困難化をもたらされた者が多いことが推察される。このことは、就労以外でも若者の課題存在していることを意味している。この実態を明らかにする為に、青少年シェルターの支援者とホームレス総合支援センターの支援者との語り、当事者にインタビューを実施するとともに、現在までの青年ホームレス対策の課題につき論究した。その分析から、今日の韓国の青年ホームレスの現状と彼らが社会に参加する為に必要は総合的支援とはいかなるものであるかを提言した。

本稿は、家庭の崩壊や自分自身が持つ精神疾患などのなんらかの生活上の課題があり、ホームレスとなっていた者に彼らが社会と向き合っていくため、社会に自ら主体性を持って参加するための総合的な自立支援を提起することに意義がある。

本論文の構成は以下の通りである。

第 1 章では、韓国のホームレスの実態、家出青少年との関わり、性売買との関係、韓国の家族の形態と青年のホームレスとの関係から今日の青年ホームレスの現状と実態を分析した。ここでは、青年ホームレスは家出青少年と密接な関りを持っており、その背景には親との葛藤、虐待といった家族機能の崩壊があることが確認できた。

第 2 章では、家出青少年から青年ホームレスになったケースと、精神疾患と就職困難によって 29 歳以降青年ホームレスとなったケースの二人の当事者のインタビューと青少年シェルターとホ

ームレス総合支援センターのインタビューから、家出青少年・青年を青年がホームレスになる社会的要因を分析した。この分析によって、今の青年ホームレスは本人の成長・発達を保障すべきである家族がその機能を果たせなくなることや、本人が持つ精神疾患・障害ゆえ、青少年期から他者とコミュニケーションをとる能力の脆弱、集団に参加する力の弱さによって対人関係を苦手とすることが確認できた。

第3章では、浮浪者統制制度から今のホームレス支援制度までの変化を整理し、韓国で行われてきたホームレス政策が、どのような性格を持ち、どのような変化を遂げたのかを分析し、今の制度での青年ホームレスの位置づけを明らかにした。ここで確認できたのは、最初、ホームレスは社会保安を脅かす者、社会から遠ざける必要がある者として認識されていたが、1997年の東アジア経済危機以降、ワークフェアのような就労を通じて自立できる者として変わったことである。しかし、青年ホームレスはその支援の対象から遠い存在であることが一つの課題として明らかになった。

第4章では、第1章から第3章までの分析をもとに青年ホームレスが自らの生存を保障し、社会の主体となるために必要とされる総合的支援とはいかなるものがあるかについて検討を行った。個々では、①早期対応・予防の観点②家出青少年から青年ホームレスなることに対する予防・支援③青年ホームレスに対する支援という三つに分けて、青年ホームレスに必要となる総合的支援を整理した。本研究では、青年ホームレスが持つ課題の中でも「精神疾患」、「コミュニケーション能力」、「失敗経験」と対峙し、そこからの脱落を予防し、社会参加を保障するための支援政策を提言した。